

令和5年度地域おこし学校  
こうちみませ楽舎「プレミアムクラス」  
第1回レポート (7/29)



地域おこし学校「こうちみませ楽舎」プレミアムクラスが今年度もスタートしました。

プレミアムクラスは、受講生の”やりたい”を具体化し、実現に向けて「学び」と「実践」を積み上げる講座です。

『課題解決のために、どんなアイデアを実行に移すのか！？』をテーマに約7か月間、長浜・御豊瀬・浦戸地域を中心に活動する予定です。

今年度で2年目になるプレミアムクラス、昨年度にひきつづき、主任講師には、“スーパー公務員”の異名を持つ、一般財団法人地域活性化センター 新事業企画室長 吉弘拓生氏を迎え、幅広い講義を展開していきます。

受講生との対話の時間をたっぷり設けて、最適なアドバイスをしながら背中をそっと押してくれるでしょう。受講生からも人気の講師です。



さて、第1回「課題を価値に変えていく”まくあけ”の日」は、吉弘氏の実践例を紹介するところからスタート。「JR九州・ななつ星プロジェクト」の歓迎行事を企画し、沿線の住民と協働で、列車に向けて笑顔で手を振る運動は関係者や参加住民から絶賛されたと説明。人との繋がりが生んだ成功例を聞いた受講生からも感嘆の声が漏れます。



次に、受講生たちの自己紹介の時間に移りました。それぞれの想いを伝える大切な時間。自身のバックグラウンドを語る方や早くも地域課題に言及するなど、紹介方法も様々で面白い。この時点で、教室には既に活気づいた状態です。

言葉を慎重に選んで話す受講生たちを講師や事務局スタッフが温かい眼差しで包み込みます。



受講生同士の繋がりにも目が離せません。アイデア実現に向けて実行するのは、必ずしも1人ではありません。

冒頭の吉弘氏の話でもあったように、地域の方々と協働で企画することもあるでしょう。受講生のアイデアは、今後どのような経過を辿り、実行に移っていくのか。非常に楽しみなのがプレミアムクラスの特徴かもしれません。

ここからは昨年度の受講生からの実践例を聴講する時間となりました。

まずトップバッターを飾るのは、高知市地域おこし協力隊の伊藤明子氏。「歳末たすけあい大掃除」を実行に移した事例を分かりやすく丁寧に説明。

出来ることから始めたかったので、皆さんの参加を促しやすい「お掃除」に着目した伊藤氏。大阪出身の親しみやすいキャラクターで受講生や地域住民を巻き込んだ企画は、大好評でした。お掃除の後の、焼き芋交流会でも準備から当日の仕切りまで終始大活躍でした。次回開催も期待大ですね。





次は、同じく高知市地域おこし協力隊の吉田友一氏の事例発表に移りました。

特撮作品に出演した経緯や大学院時代の研究、離島へき地医療に従事した豊富な経験を紹介し、今年2月に企画した「Let's try!! 屋台づくり ～みんなのコミュニティ・社会的処方を用いて～」の実践例を紹介。地域の方々からコミュニティスペースが少ないとの声を受け、屋台を手掛かりに

小規模な公共空間をつくることに着目をした吉田氏。ユーモアを交えた発表内容に、教室内も和みました。



【みませポーズの『M』で記念撮影】

受講生たちは、これから地域課題に着目しながら、自分の叶えたいことを突き詰め、深めていきます。受講生それぞれの想いがカタチになるのが今から楽しみです。果たしてどのように実現していくのでしょうか。次回の授業が待ちきれません。